

道の駅でできる防災と子育て支援

島根県飯南町

はじめに

飯南町は、島根県中南部にあり、広島県との県境、中国山地の脊梁部に位置し、周囲を1,000m前後の琴引山や大万木山などに囲まれ、平坦地の標高が約450mであり、県下でも代表的な高原地帯です。

町の南端にある女亀山を源とする神戸川が北へ貫流し、谷地区を南に流れる塩谷川は江の川に注いでいます。

面積は、242.88平方キロメートル（東西32km、南北32km）で、約90%を山林・原野が占めています。

町の中心にある琴引山は、出雲風土記にその名をとどめ、悠久の歴史をうかがい知ることができます。また、瀬戸山城址をはじめとする多くの城址は、尼子毛利合戦をはじめ戦国の世の興亡の歴史を物語っています。

本町は、出雲・石見・備後の三国にまたがり、また陰陽を結ぶ中国山地の要衛として古くから開発され、たたら製鉄や良質米の産地としても知られています。

最近では、出雲大社の神楽殿の「日本一の大しめ縄」を制作している町として、認知度を高める取り組みを行っています。

防災拠点としての『道の駅』

全国的にも現在、『道の駅』は旅行者など観光客の利用だけでなく、地域の方々にとっても、なくてはならない存在となっています。

時代とともに『道の駅』の機能や役割も変化し、ますます提供されるサービスに対する期待が高まっており、**休憩・情報発信・地域連携**の機能を持った、地域とともにつくる個性豊かな賑わいの場に加えて、公共施設でもある道の駅は、災害時の避難場所としての施設の提供や、物資等の提供などの役割を伴う**災害復旧拠点**としての活用についても注目されています。

近年では、地震災害や大雪などによる不測の事態がいつ起こるかわからない中、災害時に迅速かつ的確な応急対応を行うために、『道の駅』として平時より防災機能の充実のため災害時における対応・整備の強化が求められています。

現在、道の駅赤来高原においては災害時でもトイレの利用が可能になるよう、非常用発電機や、子育て世代への支援としてオムツの自動販売機、移動可能な授乳室などがこれまで整備されてきました。

ただ、実際に災害が起こった時に必要な物資や、道の駅から提供できるものは限られており、水道が使



道の駅「赤来高原」

えない、加熱調理ができない状況の場合、食品としてすぐに食べることができないものが大半であり、現状では災害時に施設を最大限活用させることはできません。



キッズスペース



おむつ自販機



授乳室

江崎グリコ株式会社との連携

今後想定される、災害時における迅速・的確な応急対応等を実施するため、具体的な取り決めが必要であると考え、この度、江崎グリコ株式会社、飯南町、道の駅赤来高原の3者がパートナーとして密接に連携し、地域の活性化及び町内の防災体制の強化を図ることを目的に連携協定を結びました。

2020年1月に女性ならではの目線で「道の駅」を核とした地域活性を行い、ネットワークを活かして「道の駅」ならではの課題の解決を目的とした、全国「道の駅」女性駅長会が発足。全国道の駅賛助会員である江崎グリコさんと連携し、全国の道の駅での子育て支援を推進できないかと模索していました。

この協定に伴い、災害備蓄品の賞味期限切れ廃棄の課題を解消する新方式【ローリングストック】を江崎グリコと導入し、液体ミルク・ビスコ缶・温めなくても食べることが可能なレトルトカレー、感染症対策でマスクが手放せない今、口腔ケア商品など販売開始いたしました。

特に液体ミルクは、豪雨や地震、相次ぐ災害に備え乳児用の液体ミルクを備蓄する自治体が急増しています。

粉ミルクのようにお湯で溶かす調乳が不要で、断水時でも衛生的で安心して使えるので、海外では当たり前に育児支援用品として普及しているが、国内ではなかなか普及が伸び悩んでいます。

液体ミルクは賞味期限が6カ月と、ほかの災害用備蓄用品と比べて短く、自治体での備蓄が進みにくいのが現状です。使っている人を増やしたい、いつ来るかもしれない事態に備えて、何かあってから焦るのではなく、日々日常で使い慣れてほしいとグリコの担当者さんからの願いもあり、育児の負担軽減のためにも、まずは商品の理解を着実に広げることが目標にして、いろんな人が立ち寄る「道の駅」を利用、合わせて他の防災備蓄品も同じく日常使いをすすめられたらとの思いで、行政を巻き込んだ【ローリングストック】を提案しました。

江崎グリコから仕入れ、道の駅店頭で販売、賞味期限が近いものは飯南町に買い上げていただき、乳児検診や防災訓練などの際、実際使用したり配布することで、廃棄を無くし、町民の方には商品を知っていただくきっかけ作りになり、次の販売に繋げていくメリットがあります。

道の駅も店頭で販売する商品の在庫が備蓄になるということではあるが、廃棄するということはないので、平常時からローリングストックで回していき、いざという時の災害に備えることができます。液体ミルクは1歳ごろまでの使用に限られており、子育て支援のみでは飯南町における1歳未満の子育て家庭はごく少数に限られてしまい、液体ミルク以外の商品を備えることにより、防災という観点で多くの町民への働きかけが出来ると思います。

少し多めに買って置いて、使ったら使った分だけ買い足す。常に一定量のものを、使用できる範囲で家に備蓄しておく方法のローリングストックを取り入れました。

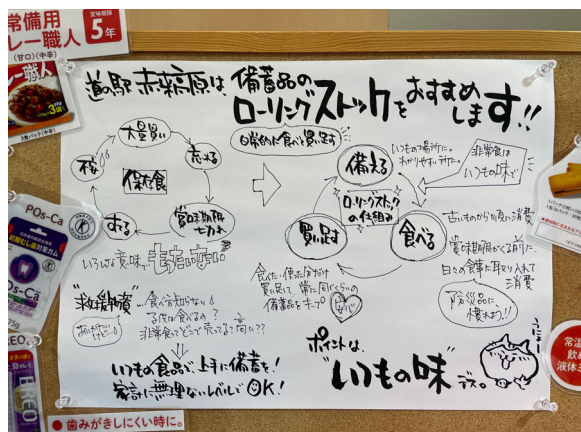
防災品って「何処にあるのか」、「どれくらい必要か」、「わざわざ買いに行くのも・・・」と、そのわずらわしさを、地元の道の駅で手軽に購入できれば誰もが防災を、育児をより身近なこととして捉えることができるのではないかと考えました。



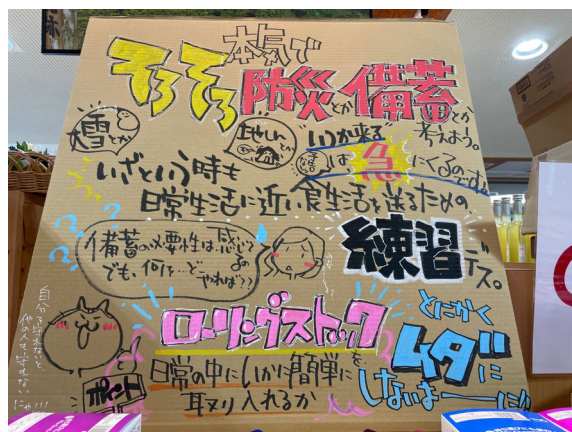
道の駅店内



江崎グリコ商品



店内ポップ



店内ポップ (防災)

おわりに

日常生活で消費しながらの備蓄を、飯南町では当たり前の防災にしたい！

常日頃から色んな地域の人が、いろんなタイミングで訪れる道の駅がイベントや、賑わいだけでなく、防災に対しても地域内外の人、女性や子育て世代への配慮も欠かせない動きを見せれば、道の駅がこれまで以上に頼りになる場所と位置付けてもらえるように、これからも『道の駅』の魅力アップに取り組んでいきたいと思います。